



## 『今この時を大切に』

養豚経営：巻町大字馬堀 齋藤 和美氏

私が養豚農家に嫁いで20数年、養豚の仕事を手伝うようになって16年経過しました。絵本で見る豚は丸くて尻尾がくるっと丸まっていてとてもかわいいものでした。でも、初めて豚を見た時は、大きく鼻が尖がっていて「イノシシ」のようでとても恐かったです。

毎日の仕事は主人が種豚舎と肉豚舎、私が分娩舎と豚の観察をして、その後は共同作業です。小規模な養豚経営であります。夫婦で同じ目標を持ち、少しでも良い経営を目指して一緒に仕事ができる事は素晴らしい事だと思っています。仕事の合間に二人でコーヒーを飲みながら、子供のこと、養豚経営のことをお互い話し合います。こういう時間が取れることは、畜産農家ならではのことで、畜産農家特有のものだと思っています。しかし、二人で仕事をする時はこれでいいのですが、生き物は毎日必ずエサをやらなければならないので、どちらか一人が用事のある時はそれは大変です。特に一人の時の種豚のエサくれは、ワアワア、ガヤガヤと騒然となり、全くのパニック状態です。たとえその用事が夫婦一緒に冠婚葬祭でも同様です。日々の飼養管理は待つてはくれません。本当に困ります。もちろん家族みんなと一緒に旅行したことさえありません。だから津南町の養豚農家や酪農のヘルパー制度のことを耳にした時はとても良い事だと思いました。出来ることなら、ヘルパーさんをお願いして、ぜひ家族旅行がしたいです。県並びに関係機関の皆様、ヘルパー制度についてぜひお話を聞かせてください。又養豚農家の研修会に参加し、いろんな話を聞き、少しでも自分の経営に役立つようなアイデアを取り入れたいと思っています。情報化時代の「今」から取り残されないようにパソコンを使いインターネットを活用できるようになりたいと思っています。「明日があるさ」でなく、今日この時を大切に精一杯頑張りたいです。

## 『緑の風の中で』

肉用牛経営：津南町貝坂 桑原 朋子氏



幼い頃、毎日のように170mの標高差のある山の田んぼへと仕事に行く母について行き、近くのブナ林の中で優しい木洩れ日に包まれながら、葉っぱの絨毯の“カサ・コソ”と言う音を楽しみながら、母が田んぼ仕事をしている間中、兄と私はこうして暇をつぶして過ごしていました。家には、家族同然のようにいつも犬や猫やウサギがいて、小さな命の誕生と永遠の別れを繰り返して経験してきました。

そんな生活環境の中で、私はいつしか大切な何かを言葉でなく、心や体験で学んできたように思うのです。その一番大切なことを伝えられる職業が畜産だと思っています。ただの経済動物としての扱っただけではありません。私達畜産農家は大切な命を育てていると思っています。農業と言う扉を恐る恐る「お邪魔します。」と開けたばかりの私は、これから先、勉強をしなければいけない事が沢山あると思います。それを少しずつ克服し一步一步前進しながら、自分の子供達や地域の子供達に、大切なものを少しでも伝えていけたらと思っています。

「おばちゃん、えさやり手伝うよ!」「ふん出し手伝うよーん!」と子供達がとんで来てくれる、そんな和牛農家を夢見て、これから先、愛する家族と共に努力して行きたいと思っています。